

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402309		
法人名	医療婦人NANOグループ		
事業所名	グループホーム菜の花 I (1階・2階)		
所在地	長崎県南島原市南有馬町乙376		
自己評価作成日	平成30年1月29日	評価結果確定日	平成30年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hyokekka_nsf/aResult?OpenAgent&amp;P=1">http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hyokekka_nsf/aResult?OpenAgent&amp;P=1</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成30年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療機関であるGH菜の花 I (2ユニット)は、母体クリニック院長が地域の独居老人の増加や入院患者の退院後の生活場所の必要性を感じホームを開設した。クリニックは、近距離に位置しホームにいながらにして24時間の持続点滴、バルーンカテーテル(膀胱留置カテーテル)酸素療法などの医療処置が可能であり医師や看護師との密な連携体制が整いそれが入居者や家族の安心に繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の外部評価の後、施設独自の理念をつくるよう目標設定し、『初心』という理念をつくっていた。職員の入れ替わりがあり、新人が増加したため、新人教育を徹底すること、教育する過程で自分たちのサービスを初心にかえり見直す機会と捉えていた。今後、2年間は『継続』という理念をきかけ、『初心』に帰った気持ちを引き続き継続していく方針である。理念を定期的に見直し、施設に合った形をつくることはサービスの質向上に有効である。  
グループ内に医療施設があり、医療のケアが受けられることは、今後重度化していく利用者、その家族にとって安心感のある施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内理念とは別に事業所独自の理念を立て実践に繋げている	前回の外部評価の後、新人職員が増加したこともあり、施設独自の『初心』という理念をつくった。新人の教育を重視しながら、指導する職員も自分をふりかえるいい機会となった。今後2年間は『継続』という理念に変更し、初心を忘れず継続していくとのことである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老の日・保育園児の慰問・原城マラソン大会の応援・浮立の見学など地域とのつながりが持てるように支援している	地域のマラソン大会に法人の理事長及び職員が参加、利用者が応援し地域の行事に積極的に参加している。毎年7月に行われる地域清掃に職員は参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行い認知症の方の理解や支援方法を地域の方に理解して頂く		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・家族・地域の方々などに参加していたが、毎回議題を取り上げて話し合いをしている。	運営推進会議がマンネリ化しないように、毎回議題を設定し、参加者の発言を引きだしている。ケアプランを作成する目的、作成する流れを説明した会は、実際の様式も配布し参加者の興味を引いていた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事は、いつでも連絡を取り協力関係を築くようにしている	市の担当者へは顔見知りになれるよう積極的に声かけをおこない関係は良好である。生活保護の利用者が複数名いるため、生活保護課の職員との関係も良好である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者に事故などの危険性がある場合、御家族の同意を得て行っている 職員で話し合い危険性が無いようであれば解除を行っている	酸素吸入器を自分ではずす、車いすで安定せず怪我のリスクが高い利用者がいたため、家族の同意のもと身体拘束をおこなった。入職した職員を対象に、利用者の状況を観察してもらいながら、転倒を防ぐ介助方法を指導し、安易に身体拘束を行わないよう研修をおこなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や資格試験勉強にて学んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や資格試験勉強にて学んでおり、成年後見制度の利用者もいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、利用契約書等の説明を行い、利用者・御家族に理解・納得頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、又家族面会時に意見や要望を聞いている 苦情があれば解決できるように職員間で話し合っている	ご近所の方から同居している家族の認知症対応についての相談を受け、施設利用につながった事例があった。	家族が部屋に残した意見に基づき、(夜間靴下をはかせてほしい)対応を変更した事例があった。意見箱への投函はほとんどないとのことなので、気軽に部屋に意見を残して帰れるようメモ用紙を残すなど、家族が意見をだしやすい工夫が求められる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、法人内の各部署代表者で行われる会議に職員から意見があれば上げている	新人職員が多くいたため、孤立を防ぐため、コミュニケーションをとりやすい職員とシフトを組みなれてから、その他の職員ともシフトをくんでいくよう配慮している。子育て中の女性職員も多く、シフトを組む際は、休日等の要望に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績・資格・労働時間など環境整備されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示し、希望する研修に参加できるように勤務を調整したり職員一人一人の経験年数や能力に適した研修への参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南島原市GH連絡協議会、島原半島GH連絡協議会で研修・ホーム長会等に参加し交流を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を聞き、安心して頂けるよう務めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の意向を確認し、対応出来る事は実行している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	クリニック・他事業所からの情報を元に対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたみ等、出来る事は行ってもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、又電話にて状態報告し家族との関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者の受け入れは、いつでも行い馴染みの人・場所の希望があれば可能な限り支援している	地元出身の利用者が多く、家族の面会があった際に知人がいれば、自然と引き合わせるよう対応している。利用者が重度化しているため、外出の機会は減っているが、地元の商店の方に声をかけ、訪問して販売してもらい、なじみの関係の維持に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し職員が間に入る事で、孤立しないよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所、又は入院後でも、お見舞いに伺ったり御家族に経過を尋ねたりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に聞き取りを行っている 可能な限り要望を汲んでいる	入所時利用者や家族に聞き取りを行う。食事の際も嫌いなものを食べなかったり、家族の面談日にパンが好きなのが判ったり、日常生活の状況観察をしながら利用者の思いを把握するように心がけて支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・情報提供の資料により生活歴を記録している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態をみて、離床する時間を決めたりしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開き、情報や意見を元にケアプランの修正を行い作成している。	併設のクリニックから入所につながるケースが多くサマリー等情報交換している。3~6ヶ月に担当者会議を行い職員一人ひとりに評価や今後の支援についての意見を聞き出し、それに基づき介護計画の作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記録している。ケアプランも介護日誌に入れている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の希望があれば、他の施設への入所支援も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの町の商店からの買い物を行ってもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の診療所、協力医療機関と連携し往診・受診が可能である	併設のクリニックより月2回の往診が行われている。眼科や皮膚科など必要に応じて職員が受診支援している。併設のクリニックや訪問看護ステーションの看護師の支援もあり、24時間医療支援体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設クリニックの看護師へ相談報告し指示をもらっている。毎週、訪問看護指導時も相談・指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、お見舞いに行き医療機関より状態や退院後のケア方法を尋ね情報交換できるよう務めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの説明を行っている。医師・看護師・介護が連携し行う事を事前に書面にて説明している	看取りの時期が来たら医師より家族に説明をし今後の方針を一緒に決めている。併設のクリニック24時間体制で支援が行われている。家族も事業所に宿泊し医師、看護師、事業所の職員と共に不安なく看取りが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、法人内に消防署に来て頂き心肺蘇生・対応の訓練を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に消防署立会いにて、避難訓練を実施している 災害時持ち出しファイル・ストック品あり	個人情報ファイルを作成し災害時に持ち出し医療連携ができるようにしている。避難経路を掲示したり、事業所の災害時の連絡網に自治会長の連絡先もあり災害時に協力してもらう体制づくりをしている。備蓄も水・米・缶詰お菓子等3日分確保しておりコンロや毛布類も備えている。	事業所の災害時連絡網には自治会長の連絡先を入れているがそれに伴った具体的な避難訓練が行われていない。実際の訓練を行い地域と共により災害に対応した避難訓練ができるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の居室がありプライバシーを確保し、倫理規定を定め対応している	入所時は個人情報の同意書を頂いてはいるが広報誌等顔写真の記載は配慮している。職員の入職時には倫理規定や接遇など新人研修をし意識を高め日常的な介護支援に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にコミュニケーションを図り、希望をきいている 御家族が間に入られる場合もある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人自由にペースに合わせて生活して頂くよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に業者に散髪をお願いしている 希望があれば出掛け買い物をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備はなかなか難しいが、食後トレーに食器をのせたりテーブルを拭いて頂いたりしている	自力で食事ができるよう、軽い物や握りやすい食器にしている。流動食の素材を一つひとつミキサーにかけ彩の良いものにしてている。ホットケーキや団子を作ったり、誕生日にはケーキを食べお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下障害のある方には、キザミ・ミキサー食で提供したり、水分にトロミをつけ安全に摂取できるようしている 又、スプーンの大きさや種類を変え支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯洗浄剤を使用		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜はオムツ使用者でも、日中はトイレ介助を行っている 排泄間隔が短い方はポータブルトイレを使用している	排泄チェック表を作成し一人ひとりの排泄状態を把握している。ちょっとした仕草から判断し、トイレで排せつする機会を多くしている。おむつを使用している方も紙パンツに変更するなど自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い、主治医へ報告し本人にあった予防対策を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日・時間は決めているが拒否等あれば、その都度柔軟に対応している	週2回入浴日は設定しているが、いつでもシャワー浴ができるように環境を整えている。湯船にゆっくりつかないように二人体制で支援をしている。拒む人には無理せず声掛けや日にちを変更するなど対応に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体の負担を考え、日中も休息時間を取っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルや基本情報に記録している。また服薬研修にも参加した		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽器や歌ができる方は、行事の際披露してもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状態を把握し、医師の許可を得て外出している	季節に応じて花見等外出する行事を計画している。敷地内を職員と一緒に散策したり、地域の行事に参加している。軽車両も用意し気軽に外出できる体制を整え、通院や買い物なども1対1で出かける機会を増やしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者に預かり金があり、希望の品があれば職員が買い物代行している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙のやり取りが出来るよう介助している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、折り紙や画用紙を用い作成したものや、利用者の誕生日やイベントなどの写真を貼ったりしている	3月はお雛様を飾り季節感を楽しんでいた。温度と湿度計を設置し、加湿や換気にも注意を払っている。窓も大きく外の景色が見渡せるようにしている。それぞれが居心地よく過ごせるよう座席等配慮して暮らしの場を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせるよう、席の場所等工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたもの、好みのもは持って来て頂き、居室等で使用されている	個別の部屋も湿度や温度の配慮をし加湿器を置き環境を整えている。なじみの物を持ち込み、布団から寝起きができる方は畳を敷くなどし、入所前からの環境に近づける配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手摺りを設置 居室も利用者に応じて和室・洋室に変更したり、ベッドより布団に変更したり工夫している		